

管内の百名山 「妙高山」



妙高山は、新潟県南西部、長野県境にある妙高火山群の主峰で、上信越高原国立公園に属し、富士火山帯の北端にあたる二重式火山で、円頂の中央火口丘を形成しており、標高2,454㍎となっています。

山名は、古くは「越の中山」（こしのなかやま）と呼ばれていたものが、好字二字令により「名香山」と当て字され、それが「みょうこうざん」と読まれるようになり、「妙高山」の字が当てられたとされています。また、別名を越後富士と呼ばれています。

妙高山を囲むように2,000㍎級のカルデラが形成され、中央火口丘との間には狭い火口原があり、その南地獄谷、北地獄谷からは、豊富な温泉源があり、裾野の温泉郷へはここから引き湯されています。妙高高原には7つの温泉郷があり、それらは5つの泉質・3色の温泉で、全国的にも珍しく、妙高の大自然に包まれて、心身ともに癒される温泉地として有名です。

昭和53年には妙高山を源とする白田切川上流の国有林において、大規模な地すべり性の崩壊が発生し、それが土石流となって流れ下り、家屋全壊27戸、死者13名、重傷者1名、被害総額56億円を超える甚大な災害が発生しました。

昨年は、災害から30年目を迎えたため、災害の記憶を風化させることがないよう、防災のための集いを開催し、亡くなられた13名の方の御冥福をお祈りしました。

当署では、災害復旧治山工事として、平成2年度の工事完成まで約35億円を投じ、治山ダム等を施工しました。その後も上流部において、治山ダムを施工し、土石流センサーを設置しています。

このように厳しい自然環境の妙高山ですが、残雪が残る5月頃には、山腹に「はね馬」の雪形が現れ、山麓から一気に雪解けが進みます。妙高山の山開きは7月1日で、登山口は燕（つばめ）温泉が表口で、新赤倉温泉口・池ノ平温泉口と笹ヶ峰口からは年間約3万5千人の登山者が訪れています。また、笹ヶ峰口は火打山や平成18年12月に入山規制解除となった焼山への縦走コースとなっています。

当署では、6月から8月まで、週末を中心にグリーンサポートスタッフが、観光客や登山者に入林マナーを呼びかけるチラシを配りながら、妙高山周辺の自然の魅力をPRしています。今後も地元自治体、ボランティア団体等と連携・協力しつつ、保全管理活動を積極的に展開していくこととしています。



はね馬



妙高山とイモリ池